

## ごあいさつ

会 長 刈 米 重 夫

昨年は大阪、一昨年は東京という大都会について、本年は福島という小都会で何かとご不便もあろうかとは存じます。しかし学術集会そのものは、従来に劣らぬ充実したものにするべく一同で努力致しました。さらに、ちょうど全山紅葉の季節で、東北以外では味わえない美事な山野をも満喫してお帰りいただきたいものです。

今回は一般演題も 569 題と大幅に増加して、核医学に関心をお持ちの方々がなお確実に増加しつつあることは、意を強くさせられます。内訳は心臓関係は奇しくも昨年と同様 135 題の多くを数えましたが、他の演題が増加したため、全体の 23.7% に低下しています。SPECT, サイクロトロン, ポジトロン, NMR は 88 題で昨年の 1 割増加、脳・中枢神経が 50 題で分類法にもよるのですが、大幅な増加が目立ちます。炎症腫瘍と呼吸器が各 38 題、24~25 題のものが、機器、甲状腺、肝・胆・脾、放射性医薬品など、また Work in progress として申し込みいただいたものが 26 題あります。その他のセクションは 15~10 題ぐらいつが並んでおります。

一般演題をかくも多数お寄せ下さいましたので、これをどう配分するかは問題でしたが、結局午前中に 8 つの会場を用いて、平行して進行することにしました。あるいは興味のある演題が時間の関係でお聴きになれぬ部分もあるとは存じますが、多くの内容をこなすには仕方ないことですのでお許し下さい。

シンポジウム、教育講演、招待講演につきましては、主としてプログラム委員の先生方の意見により決めました。特別講演は「日本の核医学、過去と将来」と題して、核医学発展の過程を滋賀医科大学長：脇坂行一先生に、将来像は脇坂先生の古い弟子であり、現在現役の最先端で活躍しておられる京都大学の鳥塚先生にお願い致しました。会長講演としては、普段多くの方々にはご興味のすくないと思われます「血液核医学の現状」を話させていただき、この機会にお耳に入れておきたいと存じます。

教育講演を午後の最初の時間にもって来たのも、普段比較的聞くことの少ない他の分野の現状を聴いていただきたいという意味です。

外人の招待講演は 5 題を組み入れました。いずれも米国で、現在それぞれの分野の第一線に立っておられる方々で、実りあるお話が聴けそうです。

シンポジウムは 4 題、脳、血液、心臓、腫瘍それぞれのエキスパートに司会と講演をお願いしており、最近急速に進歩した分野でもあり、その成果が期待されるところです。

Work in progress はその委員の方々のご努力によって立派なデータ集が出来上りましたので、参会者全員にお配りします。また発表は学会第 3 日目の午前にまとめてありますので沢山のご参加をお願いします。

機械、薬品の展示は主会場の県文化センターと市民会館の中間にあたる市体育館をあててあ

り、スペースも相当広くとれましたので、ご期待に沿えると思いますので、充分ご利用下さい。

会員懇親会は学会第2日プログラム終了後福島駅前 ホテル辰巳屋 において行います。ふるってご参加下さい。

会員全員のご参加を得て第24回日本核医学会をさらに実りあるものにすべくご協力をお願い致しますとともに、時間が許せば東北の秋のすばらしい紅葉をごらんになって帰られるようスケジュールを組むことをおすすめします。

総会のプログラムは下記のプログラム委員の方々のご協力により編成されました。会長として謝意を表します。

## 第24回 日本核医学会総会 プログラム委員会

委員長 刈 米 重 夫

副委員長 内 田 立 身

委 員

井 沢 豊 春, 井 戸 達 雄, 上 村 和 夫, 大和田 憲 司,  
小山田 日吉丸, 折 井 弘 武, 川 名 正 直, 木 村 和 衛,  
久 保 敦 司, 小 西 淳 二, 斎 藤 宏, 佐々木 康 人,  
高 橋 恒 男, 高 橋 貞一郎, 高 橋 豊, 利 波 紀 久,  
中 村 護, 成 田 充 啓, 古 舘 正 徒, 松 沢 大 樹,  
町 田 喜久雄, 町 田 豊 平, 山 口 昂 一, 山 崎 統四郎

(敬称略, 五十音順)